



相国寺の近代



PRESS RELEASE

相国寺承天閣美術館開館四十周年〈I〉

概要

江戸時代が終わり、日本全体が新しい体制に変化した激動の時代に、相国寺もまた大きな変化を迎えていました。それまで相国寺の住持の任命、寺領の安堵を行っていた江戸幕府の約二六〇年の歴史が終焉をむかえ、寺院体制が根幹から揺らいだのです。

相国寺は明治期に複数の塔頭が廃絶、寺宝の伊藤若冲「動植綵絵」も手放しました。何を手放し、何を守ったのか、現存する什物と近代文書から探ります。

また、多くを失った後には、再構築の動きがおこります。明治後半から大正期にかけて、新たな寺宝も追加されていきました。特に、富岡鉄斎に絵を習った相国寺僧、橋本獨山は祖師の墨跡や青銅器などを相国寺に寄進しました。その作品群も公開いたします。

相国寺が迎えた近代の景色を、本展覧会でご覧ください。

第一章 手放した寺宝、残した寺宝

釈迦三尊像 伊藤若冲筆 相国寺蔵（画像）

初公開 皇室献納関連文書 相国寺蔵

初公開 雪舟破墨山水図余滴 慈照院蔵



第二章 薩摩藩と相国寺

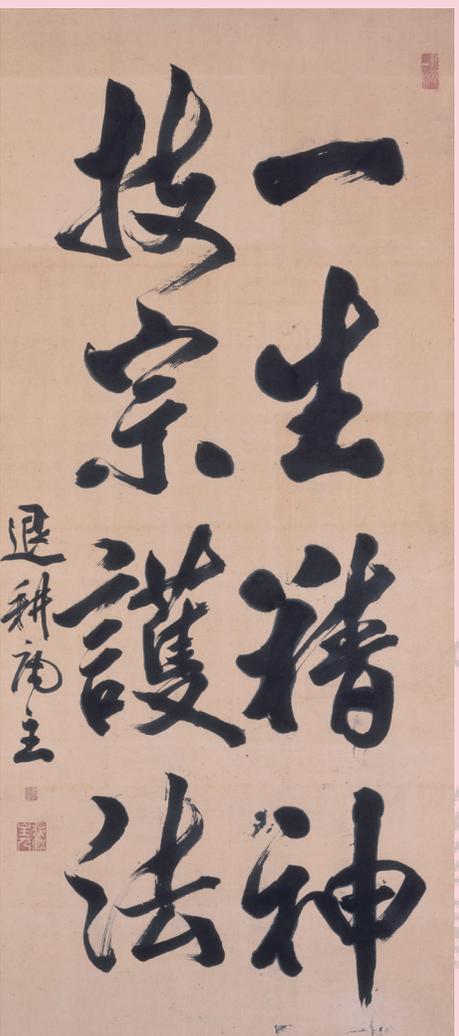
初公開 松齡院記 林光院蔵
しょうれいいんき

相国寺境内図 相国寺蔵

第三章 明治新政府と相国寺

荻野獨園頂相 豊光寺蔵
おぎのどくおん

荻野獨園墨蹟 一生精神扶宗護法 相国寺蔵（画像）

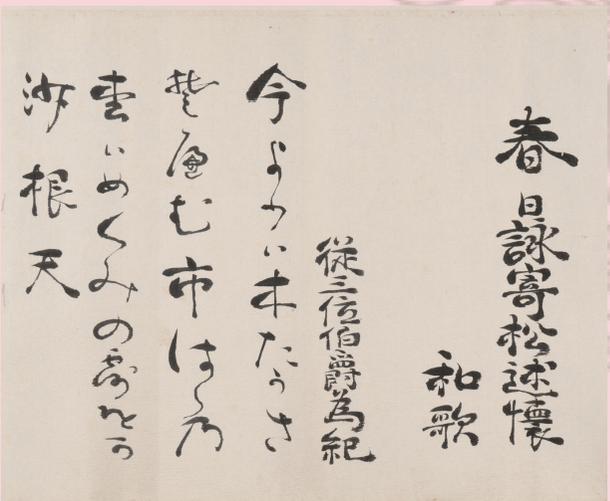


第四章 明治の文人たちの顕彰

龍図 伊藤若冲筆 富岡鉄斎箱書 大光明寺蔵

初公開 惺窩先生撫松図詩歌 富岡鉄斎他 林光院蔵 部分（画像）

惺窩先生墓建碑祭典略記 版木 林光院蔵



第五章 加えられた寺宝

春屋妙葩墨蹟 衲僧爪剪 相国寺蔵

淡彩春景山水図 謝時臣画賛 相国寺蔵

青銅義首龍文盥 相国寺蔵（画像）

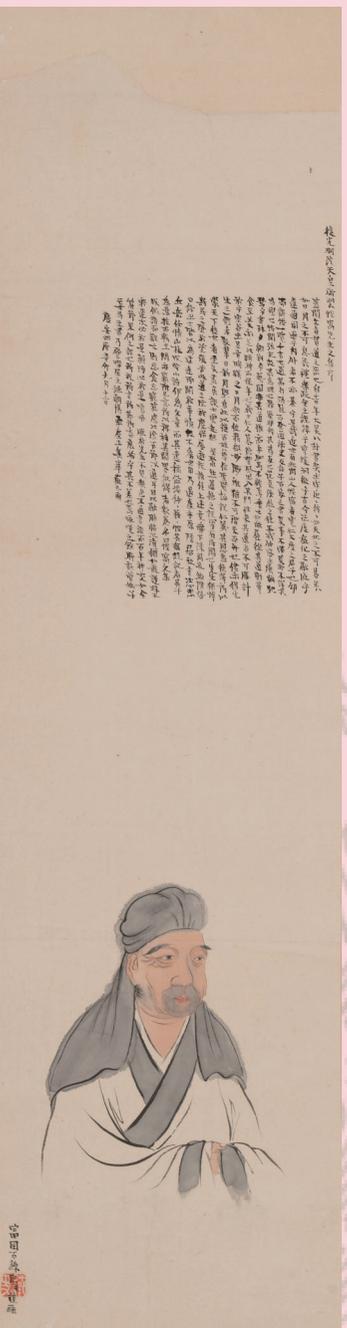


【みどころ1】 流出した寺宝の記録

相国寺は明治時代の寺院政策、廃仏毀釈の影響を受け、存続をはかるために多くの寺宝を手放しました。流出した作品群の中には、現在国宝の指定を受けている作品も複数含まれます。その中でも、皇室に献納された「動植綵絵」は江戸時代の絵師、伊藤若冲の傑作とした名高いものです。その「動植綵絵」を手放す決断をした当時の相国寺住持、荻野獨園の想いを示す資料を初公開資料も含め展示いたします。

【みどころ2】 藤原惺窩頭彰の記録

近世儒学の祖として名高い藤原惺窩（一五六一～一六一九）の墓所は相国寺塔頭、林光院にあります。明治時代になると富岡鉄斎を中心に惺窩頭彰の活動がおこり、明治二十二年（一八八九）には墓碑が建立され、明治二十六年（一八九三）には惺窩に正四位の位が贈られました。それらを記念した出版物の版木や初公開の詩歌会の記録などの什物を展示いたします。



藤原惺窩像 富岡鉄斎筆 林光院蔵



【開催情報】

二〇二六年三月二十八日(土)～五月十七日(日)
 開館時間
 一〇時～一七時(入館は一六時三〇分まで)



【拝観料】

大人 一〇〇〇円
 大学生・高校生 八〇〇円
 中学生 五〇〇円
 小学生(要保護者同伴) 無料
 ※大人二〇名様以上は団体割引で各八〇〇円



イベント

【記念講演会】

「近代の相国寺」
 二〇二六年四月四日(土) 一四:〇〇～一五:三〇
 講師 藤田和敏氏(相国寺史編纂室研究員)
 場所 当館二階講堂(一三:三〇開場)
 定員 先着八〇名様



【ギャラリートーク】

二〇二六年五月二日(土) 一四:〇〇～一四:三〇
 講師 本多潤子(当館学芸員)
 場所 展示室
 ※各イベントには当日の拝観券が必要です。

【主催】

相国寺承天閣美術館

【協賛】

一般財団法人 萬年会 鹿苑寺 慈照寺



アクセス

- ▶ 京都駅より
- 京都市営地下鉄今出川下車
三番出口から徒歩八分
- ▶ 阪急電車烏丸駅より
- 京都市営地下鉄今出川駅下車
三番出口から徒歩八分
- ▶ 京阪電車出町柳駅三番出口より徒歩二〇分
または市バス
- ▶ 市バス五九、二〇一、二〇三号系統
同志社前下車 徒歩六分
- ▶ 市バス一〇二号系統(洛バス)
烏丸今出川下車 徒歩八分



報道関係者様お問い合わせ先

相国寺承天閣美術館PR事務局

(TMOフィス内)

担当: 馬場・西坂・永井

MOBILE:

〇九〇-六〇六五-〇〇六三(馬場)

〇九〇-五六六七-三〇四一(永井)

TEL: 〇五〇-一八〇七-二九一九

FAX: 〇六-六二三一-四四四〇

E-mail: shokokuji@tm-office.co.jp

〒五四一-〇〇四六

大阪市中央区平野町四-七-七

平野町イシカワビル